



琥珀とウー



新宮市立医療センター
院長 中井三量

皆様明けましておめでとうございます。令和3年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）で右往左往、収まるかに見えて振り返り、全く人間生活をあざ笑うかの様に我々を翻弄してくれました。それでも我々はコロナ禍に打ち勝つ方策を堅持し実行してきました。ワクチン開発とその実施、有効な治療薬もいくつか開発され実証されてきています。そして何より、国民が一体となって行動自粛し、三密を避け、手洗い、マスク着用を実行してきた事が大きく寄与しているのでありましょう。我々新宮市立医療センターも COVID-19 診療の紀南地域での拠点として活動し、多くの患者を受入れ、地域周辺医療機関と協力し指導してきました。何より誇るべきは院内スタッフに感染者なく、周辺関係者までの感染拡大で収めることが出来たことです。地域の皆様の意識高揚とご協力によりようやく収束が見えてきました。全世界の人間がひとつの事態に対処し、乗り切れたと思いたいところです。

この時節に、当院は新たにHCU(高度急性期病床)開設に向け計画し、現在工事進行中であり、令和4年春に運営を開始します。ベッド数は5床、救急外来からの緊急入院患者、手術後の集中治療を要する患者さんを収容治療します。新たに診療機器設備を整備し、救急専門医の招聘に向け、和歌山県立医大救急科に働きかけ調整中です。HCUが開設されますと、当地域の医家、一般の皆様にとって当院の救急体制がさらに充実安心出来るものになると考えております。

2021年ノーベル物理学賞を真鍋淑郎プリンストン大上級研究員が受賞。地球大気と海洋循環の研究で地球温暖化の予想を40年以上も前に行い、現在の地球温暖化対策の指針となりました。大谷翔平選手は言わずもがな米大リーグで投手と打者の二刀流の大活躍、MVPであろうとのこと。すったもんだの2020東京オリンピック・パラリンピックで日本人選手が活躍しました。彼らについて思うのは、興味のある好きなことを、地道に、しつこく、継続して行って来たことでありましょう。Apple 創業者のひとり Steve Jobs の言葉に『当座のやっていることがすぐに役立つかどうかは分からない、しかし、必ず何らかの形で将来ひょっこり顔を出す、あるいは大きく成長してくれる』とあります。

我々も地道に、しつこく活動継続していきたいと存じます。本年も皆様のご多幸を祈念いたします。

医療センターからの お知らせ

現在、HCU新設のための改修工事を行っています。
ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。
※HCU (High Care Unit) : 高度治療室。ICU (集中治療室) と一般病棟の中間に位置する病床

内科・腎臓内科・循環器内科・脳神経内科・(火曜日のみ)皮膚科・眼科の受診には、医療機関からの紹介状が必要です。

救急の場合は、この限りではありません。直接、救急外来に電話で相談してください。

—基本理念—

私たちは、すべての患者さんの安全と権利を守り、良質な医療環境のもとに、安心して適切な医療が受けられる病院をめざします。

—基本方針—

1. 患者さんと職員の安全確保
2. わかりやすい説明の工夫と守秘義務の順守
3. 医療の質の向上、チーム医療の充実、全人的医療人の育成
4. 地域医療の連携強化
5. 自治体病院としての公共性を追及

診療科紹介

外科

外科は、消化管、肝胆膵領域、体壁、乳腺の治療に携わっています。具体的には、胃や腸、胆嚢、鼠径ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニアなどに対する腹腔鏡下手術や開腹手術、膵臓や肝臓の切除術、痔の手術などで、腹部の急性疾患や外傷に対する緊急手術にも可能な限り対応しています。癌の症例に対しては、病状に応じて、審査腹腔鏡、術前(放射線)化学療法、術後補助化学療法、転移や再発を来した場合の手術や化学療法を行います。これらに対して、山出、稲田、出口、下村の常勤4名に加え、非常勤の粉川先生に乳腺専門外科外来を担当いただいています。

2020年1月～12月の手術件数は、胃癌が15件、大腸癌が64件、痔核・痔瘻が11件、原発性・転移性肝癌が3件、胆石症が22件、膵癌・胆道癌が3件、乳癌・ヘルニアなどその他の疾患が138件でした。侵襲性の少ない腹腔鏡下手術が多くを占めています。

一方、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で、手術件数は全国的に減っています。当病院でも同様でした。物流の停滞による手術物品の枯渇、不急の手術を延期するようとの学会提言、健康診断の手控え、病床の逼迫などが原因です。

その新型コロナですが、本稿を執筆している2021年10月末現在、第5波の新規感染者数は急速に減少しています。明るい兆しであればと心から願っています。

ここで一つお願いがあります。

癌は、早期であればあるほど、治療が“楽”です。消化管であれば、内視鏡下粘膜切除術・粘膜剥離術など、内視鏡(いわゆる胃カメラ、大腸カメラ)だけで治ってしまうことも少なくなく、日常生活への影響もほとんど残しません。

手術になる場合でも、早期に近いなら完治が期待でき、再発の可能性を過度に心配する必要もなく、再発の可能性を低減するための抗癌剤を使うこともなく、定期の血液検査やCT検査の回数も少なくて済みます。

健康診断、人間ドック、面倒くさいなあ…、と思われるかもしれません。しかし、早期発見・早期治療には、あなたがお考えになっている以上のメリットがあります。新型コロナワクチンの接種を完了された方が9,000万人を超え、収束の可能性さえも出てきた今、健診の案内があれば、受診をご検討ください。ドックを受けられるのも良いでしょう。便潜血検査も受けられると完璧です。あなたと、あなたの周りの大切な方々を守るために。



職場ウォッチング

4階西病棟

4階西病棟は、内科・腎臓内科を中心に入院患者さんを受け入れている病棟です。看護師22名、ナースエイド(看護補助者)5名、学生2名の合計29名で54床のベッドを担当しています。入院患者さん一人一人に担当看護師を決めて、その看護師が中心となり看護する体制を取っています。患者さんの病状が良くなり、ご自分で動けるようになったり、食欲がでてきたり、日々患者さんが元気になっていくことが何より私たちの励みです。

私たちは、患者さんやご家族の思いを理解するために、コミュニケーションを大切にしています。コロナ禍で面会禁止のため、担当看護師はできるだけご家族に電話で患者さんの様子をお伝えするようにしています。ご家族が来院された際は、患者さんに代わって担当看護師がお話させていただくように努めています。

また、院内外を問わず、患者さんに関わる多くのコメディカルの方たちとよく話し合い、患者さんがより良い入院生活を送り、元気になって退院できるよう協力しあって頑張っています。



「看護師の特定行為」をご存じですか

4階西病棟副看護師長・特定看護師 速水 恵

急性期から在宅医療まで、医療従事者がそれぞれの専門を活かしながらチームで患者さんをサポートすることはとても重要です。中でも看護師は今まで以上の活躍を期待されています。

2015年（平成27年）医師の負担を軽減することと、患者さんにとってタイムリーな診療行為が提供できるように、「看護師の特定行為」という制度が施行されました。これは、医師の指示によって看護師が代わりに処置を行える制度です。医師の代わりにする看護師は「特定看護師」といい、高度で専門的な研修を受けて資格を得なければなりません。

私は常々、患者さんの病気だけを見るのではなく、一人の生活者として受け止め、より良い療養生活のために専門職としてできるだけのことをしたいと考えてきました。特定看護師として専門的な知識と技術を身に着ければ患者さんの療養生活をもっと手厚くサポート出来るのではないかと考え、

研修を受けることにしました。

全部で21区分38行為の特定行為が認められていますが、現在私が実施できる行為は以下のとおりです。

- ①腕の太い血管に栄養補給の点滴を入れる
- ②心臓近くの血管に入れられた点滴を抜く
- ③高カロリー栄養の点滴を調整する
- ④脱水症状を軽減するための点滴を調整する
- ⑤気道のチューブ（気管カニューレ）を交換する
- ⑥胃ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを交換する
- ⑦褥瘡やキズの壊死組織（血流のない部分）を取り除く処置
- ⑧キズに対する陰圧閉鎖療法

これから、この資格を十分に活かし、患者さんの立場に立ち、気持ちに寄り添った看護をしたいと考えています。そして、自分の知識や技術を後輩に伝えながら一緒に成長していきたいと思えます。

登録医のご紹介

こしみちクリニック

東牟婁郡串本町鬮野川1356-4
TEL 0735-67-7785

越道 慎一郎 院長



風邪、生活習慣病などの内科的疾患から脳卒中などの専門的分野の診察・治療まで幅広い疾患に対応します。



谷地内科医院

新宮市新宮554-1
TEL 0735-23-3088

谷地 雅宏 院長



当院は内科疾患全般にわたる一次診療に携わっています。

在宅医療では訪問看護事業所や介護事業所との連携の中で、住み慣れた家、地域で安心して治療に取り組めるように定期的な訪問診療を通じて体調管理に関わっています。



令和3年度 災害実動訓練

令和3年9月23日に、職員約40名が参加する災害実動訓練を実施しました。

休日・夜間に震度6強の地震が発生した想定で、まず発災時に当直している職員で院内の被災状況などを把握し、その後災害対策本部員に情報を引き継ぎ、本部の設置と運営を行っていくという訓練でした。



この訓練で分かった新たな課題を踏まえ、災害拠点病院としていつでも速やかに対応できるように、今後に向けて災害に強い安心安全な病院作りに努めてまいります。

令和3年度 8月～11月 研修会



研修報告

地域医療連携室では、地域の看護・介護関係の皆さまを対象に毎月1回のペースで研修会を開催しています。新型コロナウイルス感染症予防のため集団研修を自粛し、インターネットでの研修を行っています。

<8月・9月>
「DMATって何だろう？」

2回シリーズでDMATの活動目的や活動内容を当センターのDMAT隊員からお話しました。災害時の対策をあらためて考えるきっかけになったと好評でした。

<10月>
「骨粗鬆症リエゾンチーム
食事・お薬・検査のお話」

骨粗鬆症は骨折をおこしやすく、骨折を機会に介護を必要とする状態になるケースが増えています。介護予防につながる骨粗鬆症対策を栄養士や薬剤師、放射線科技師がお伝えしました。

<11月>
「高齢者の排尿障害」

高齢者の排尿障害の原因や治療、ケアを泌尿器科医師、看護師からお話しました。排泄ケアは患者さんにとっても看護・介護者にとってもデリケートな問題です。専門的な学習をする機会となりました。

◆◆退任医師の報告◆◆

氏名	診療科・役職	退任日
里神 慶亮	循環器内科医長	令和3年9月30日



編集後記

新年明けましておめでとうございます。
子どもの頃のお正月といえば、すれ違う自動車の華やかなしめ飾り、親戚同士の賑やかな食事会、お年玉だけではなく、風景や雰囲気も幼心に特別な印象が残っています。
近年のお正月は、しめ飾りをつけた自動車も減り、ここ数年は親戚同士の集まりも減少しています。ただ一つ、元日の朝に窓を開けると感じる、清々しい空気だけは健在です。新しい空気をたくさん吸い込み、今年も一年、心機一転頑張りましょう。
シェパード・ン